

美麻小中学校 コミュニティ・スクール

学校運営協議会制度と地域学校協働活動

義務教育学校の強みを生かして



美麻小中学校地域学校協働コーディネーター
文科省総合教育政策局CSマイスター

前川浩一



大町市美麻地区

- 平成18年合併
- 令和3年9月
人口860人386世帯
R3高齢化率37.8(市38.3)
- 美麻小中学校(義務教育学校)
児童生徒数94人
小学生60人中学生34人
- 山村留学生13人特認校生26人
- 国型コミュニティ・スクール
- 移住者が人口の4割以上
- 5年間移住18世帯
- 住民自治組織美麻地域づくり会議



美麻のまちづくり

美麻地域づくり会議 (まちづくり住民自治組織)

- ・ 地域事業の主催
 - ・ 情報発信
 - ・ 朝市
 - ・ ふるさと交流
 - ・ 定住促進事業
 - ・ 特産品開発
 - ・ 学社融合事業
 - ・ 小さな拠点(法人化)
- 一般社団法人地域づくり美麻

まちづくりの
意識



住民による情報発信

住民手作りホームページ「美麻WIKI」

<http://miasa.info>

- だれでも使えるHP
- 情報交流（発信＆収集）
- 動画ネットTV配信
- データバンク
- フェイスブック
- 学校の授業での活用



住民手作り広報「美麻づくり通信」隔月発行

- 印刷機・紙折り機導入
- コミュニティだより・PTA新聞との協働
- 支所・学校や保育園も参加

カリフォルニア州メンドシーノ国際交流事業

- 30年間続く相互交流訪問事業(5・6年生)
- 行政と学校と地域による協働の実行委員会
ボランティアの企画・事前授業・引率・指導
- 地域住民による継続的なサポート体制



校長による学校経営ビジョンと教育目標

地域が学校運営に参加

信頼関係

地域と学校が役割分担と協働

地域の情報と先生方の仕事軽減
授業研究や準備・子どもと向きあう時間

授業改革による深い学び

協働で創る授業

求められる資質・能力

生涯学習・地域づくり

子ども 「行きたい学校」
保護者 「行かせたい学校」

教師 「やりがいのある学校」
地域 「誇れるうちの学校」

コミュニティ・スクール・小規模地域特認校・義務教育学校へ

- H25年8月 コミュニティスクール推進委員会発足
- H25年10月 スクールコーディネーターの配置
- H26年1月 ボランティアとして地域住民が学校支援を開始
- H26年4月 小中併設校から、小中一貫校コミュニティ・スクールへ
学校運営協議会を設置
- H27年4月 小規模地域特認校制度導入
(H27開始時:10人・R3現在26人)
- H28年4月 義務教育学校としてスタート

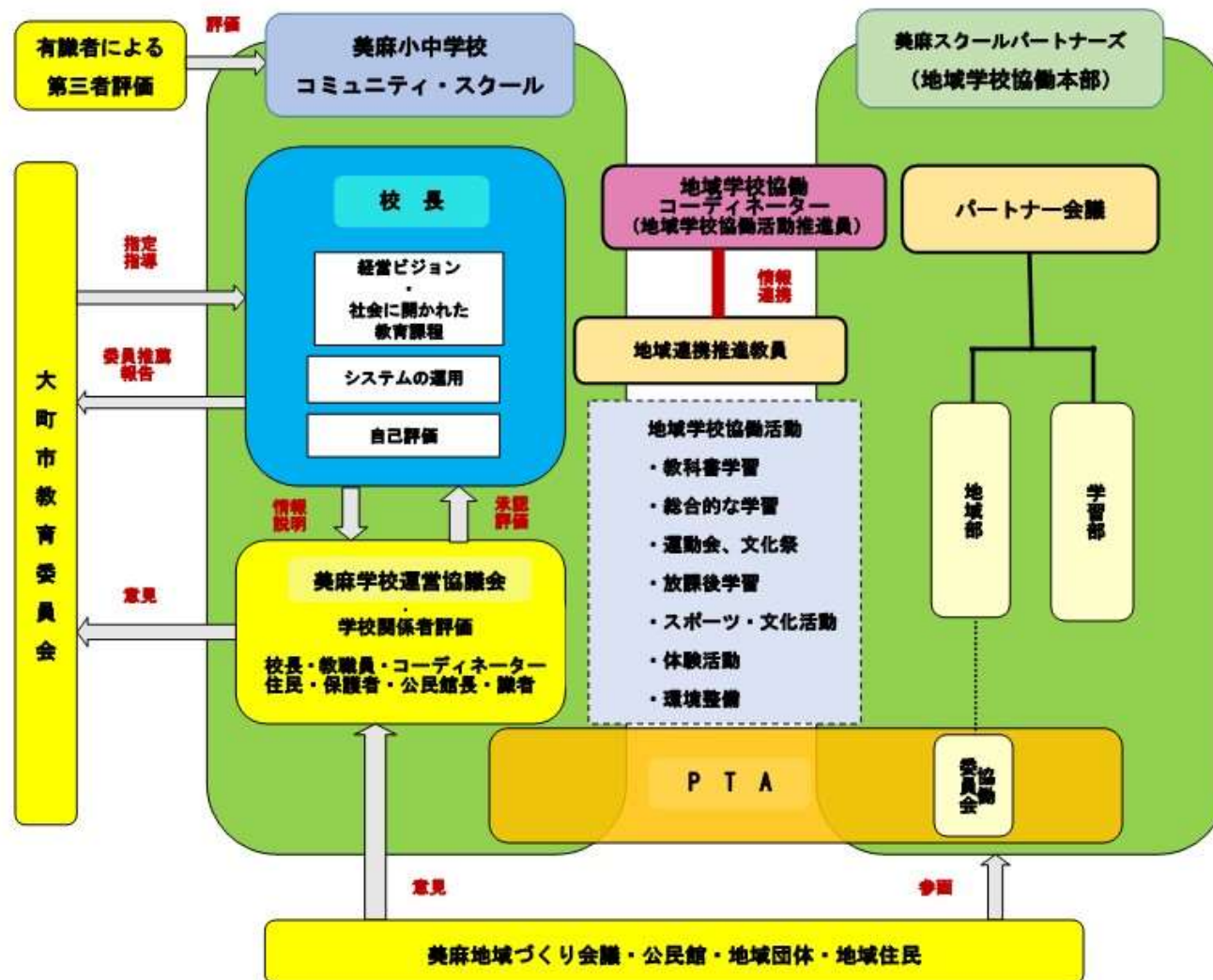


協働の学びの授業



元気UP運動

美麻小中学校のコミュニティ・スクールのイメージ



学校運営協議会の活動

①校長の学校運営方針の承認

②学校運営への意見

③学校評価
・次年度の改善

④教職員の任用に関する意見を述べる

熟議・共有



学校運営協議会による学校評価

学校関係者評価

- ・授業参観
- ・地域学校協働活動への参加
- ・職員研修会への参加
- ・職員の学校評価への参加

授業などを見る機会の増加

第三者評価

- ・学校運営への評価
- ・学校運営協議会の活動評価
- ・地域学校協働活動の評価

PDCAによる改善実施

読者タイムス 令和2年8月10日 第三種郵便物承認

魅力ある学校へ評価シート

大町 美麻小中 運営委参加し作成



学校評価作成へ意見を出し合った

大町市の小中学校で昨年度から、「魅力ある学校づくり評価シート」の作成・活用が始まっている。授業や学校運営などを学明ごとに学校が評価する「自己評価・総合評価」と、学校運営協議会が評価する「学校関係者評価」から、改善や向上につながるツールとして活用する。

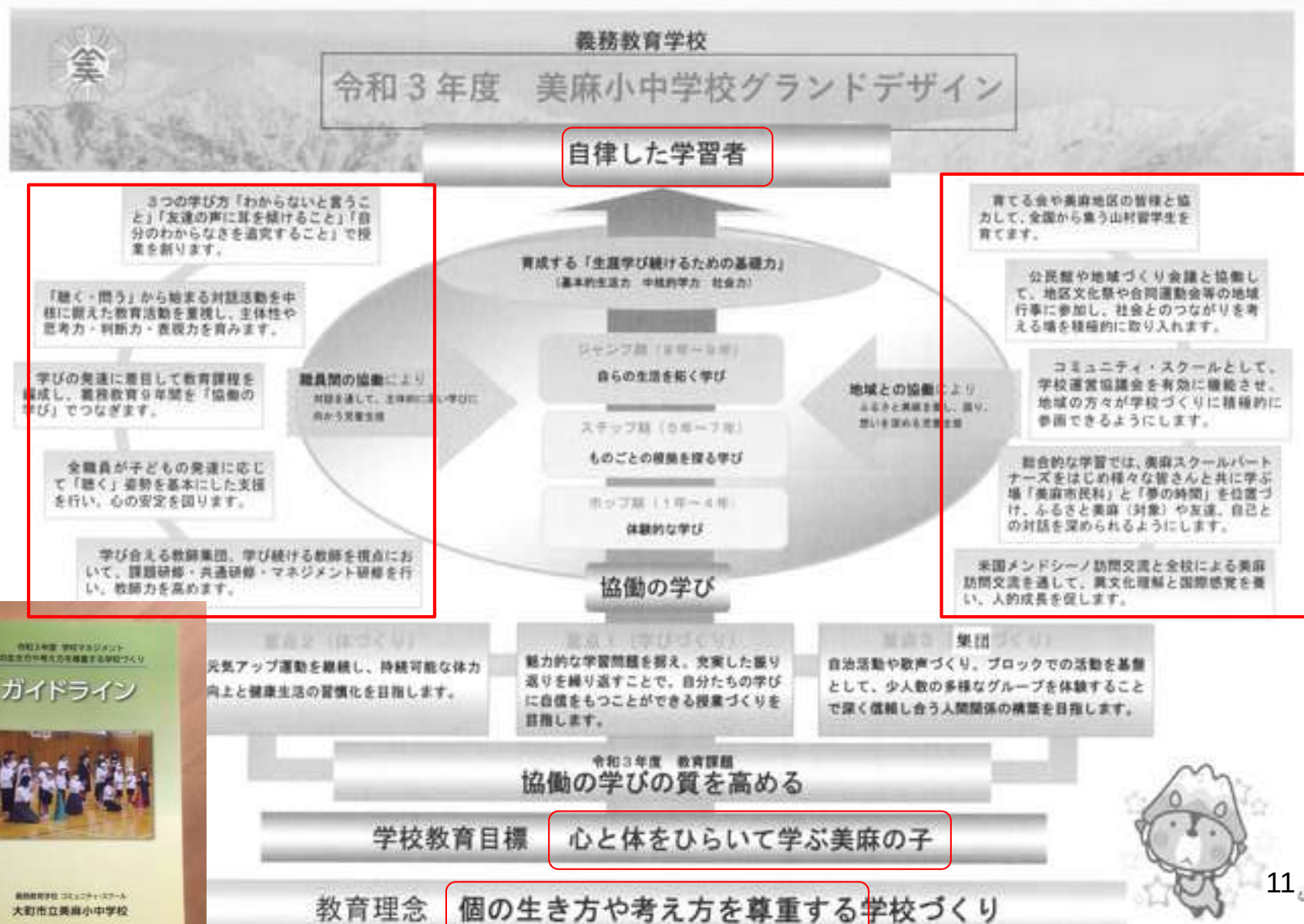
18日には、美麻小中学校で学校評価作成にかかる教諭らによる課外共有の時間に、同校の学校運営協議会委員が参加した。普段あまり交流のない教諭らと委員の、意見交換・意見共有を進めようと初めて試みて、1学期の振り返りと改善策・向上策を制作するため夏休み中に実施した。

教諭らは「学びづくり」「体づくり」「集団づくり」の3つのグループに分かれて1学期を振り返り、意見を出し合った。現行の指導要領にのった授業進行に沿って、問いを立てるなどの難しさや、家庭と連携する健康づくり・体づくりなど、さまざまな課題について話し合った。

委員たちも3つのグループに参加し、それぞれに発言した。「先生の考えや、授業参観時の目玉ポイントが知れてよかった」と話していた。山岸澄雄校長は委員らに向けて「これまで子どもたちを見てもらう機会はあるけれども、先生たちと話すことは少なかったと思う。より学校を知ってもらうきっかけになれば」と話していた。

【学校運営協議会】文科省型のコミュニティ・スクール運営のベースとなる協議体で、コミュニティ・スクールは学校運営協議会制度とも言われる。

グランドデザインと地域の役割



地域への活動の情報発信

地域部

- ・花植え活動
- ・環境整備(助成金) 植樹・山野草園
- ・雪囲い
- ・運動会準備
- ・ボランティア研修会の企画
- ・HPの管理
- ・コミュニティだより
- ・コミュニティカレンダー制作



さまざまなボランティアの活動

◎学習部

・教科学習

- ・授業見守り(1年)
- ・家庭科(調理5年8年・裁縫・ミシン7年
・着物着付け8年・子育て9年)
- ・理科(解剖6年・天気8年・実験)
- ・体育科(1から4年)スキーの指導

・総合学習

・生活科

・その他

- ・国際交流時学習
- ・図書館蔵書整理
- ・読み聞かせ1～6年
- ・部活
- ・遠足1～4年
- ・職場体験7・8年



学習活動の協働

・1-4年 遠足

- ① コース選定・下見
- ② コースの安全確保
・整備草刈り
- ③ 樹木・史跡の説明・民話



・3年 地域見学

- ① 見学場所選定
- ② 案内者の選定・連絡
- ③ 学びポイント

・3年 秘密基地づくり

- ① 指導者紹介
- ② 持ち主の了解
- ③ 材料提案・採取
- ④ 制作指導・設計

・4年 森の授業

- ① 指導者の紹介
- ② 活動内容の提案
- ③ 伐採・制作指導

協働活動による大人の意識変化

- ・多様な子ども見守り
- ・家庭科 調理
- ・1-4年 山菜きのこ学習
- ・1-4年 遠足
- ・4年 森の授業
- ・・・フリースクールとの連携
- ・・・先生や保護者も学ぶ
- ・・・後継者育成
- ・・・地域の楽しみ(参加者の増加)
- ・・・仕事の継承・先生たちの研修

地域づくり活動をする若い人が増えた



学びを地域とともに

美麻小中学校の総合学習 「地域で学ぶ」美麻市民科 6年から9年 グループ学習

- ・ 7年から9年は継続テーマ
- ・ 継続的な深い学び
- ・ 探求的な学び
- ・ 学びの地域還元(貢献)
- ・ 子どもたち主体
- ・ 大学の支援
- ・ 地域文化祭で学習発表
- ・ 地域の多くの人に関り



予算要求...



生き甲斐に...

学びを地域とともに

総合学習 花豆の6次産業化

- 花豆農家と店舗の協力
- 商品開発
- プレゼン
- 販売
- レシピ集づくり
- 花豆BOOK制作中

休日は地域が子どもたちを！



学びを地域とともに

総合学習 美麻和になれMAP

- ・ ファシリテーションやワークショップの学びから
- ・ 観光案内看板に



学びを地域とともに

総合学習 美麻かるたの制作

- 6年生からの学び
- 地域での聞き取り
- 多くの人の助言
- 商品のパッケージにもなる

助成金以外に協賛者が多数



地域行事での協働

美麻地区文化祭 7～9年生の授業

- ① 子どもによるプログラム企画・運営
- ② 子どもが総合学習の学習成果発表

- ・ 地域の楽しみ
- ・ 参加者の世代が広範囲に
- ・ 地域が子どもたちの学びを評価

自己有用感



地域行事での協働

地域・学校・保育園合同運動会

- ・ 授業の一環
- ・ 子どもの姿の共有
- ・ 多様な子どもの見守り

- ・ 負担感の軽減
- ・ 目的の共有



地域が主体で担う学び

1. 放課後学習(7～9年生対象)

- ・ 英語・数学・理科中心に5教科の指導

2. 放課後子ども教室(3～9年生対象)

- ・ 体験的な学習(月替わり)

- ① お山の学校(木工・山歩き)
- ② 英語で学ぶ野外教室
- ③ 理科実験教室
- ④ コミュニケーション教室
- ⑤ お魚の教室
- ⑥ 星の教室
- ⑦ 音と楽器の教室
- ⑧ 鹿角クラフト教室
- ⑨ 花豆料理教室



- ・ 子どもを主体に企画
- ・ 縦割りの環境
- ・ 多様な子どもへ対応
- ・ 大人の参加者の募集
- ・ 協働の授業につながる
- ・ ボランティアが管理・指導

地域協働の学びによる子どもの変化

- 求められる力
 - つながる力
 - 関わる力
 - 考える力
 - 表現力
- コミュニケーション力・挨拶
- 個人や個性の尊重
- 自分の夢を自分の言葉で
- 上級生を目標に
- 地域に貢献したいと思う



コミュニティ・ルームの活用

ボランティアの学校での居場所づくり

- ボランティアの拠点
 - コーディネーターの事務所
 - 協働活動の打合せ
 - 放課後塾の開催
 - PTAも利用
 - 多様な子どもの教室として
-
- CSや学習の資料
 - お茶お菓子を常備
 - Free Wifi の導入



コーディネーターの仕事とは？

1. 学校運営に関わる仕事

- ・ 校長の学校運営ビジョンの理解
- ・ 学校運営協議会での情報共有・熟議

2. 地域学校協働活動に関わる仕事

- ・ 地域学校協働本部(ボランティア)の管理
- ・ 地域の情報の把握と学校への提供
- ・ 教員対象の研修会
- ・ 教員とボランティアのマッチング
- ・ ボランティアへの授業・子どもの情報提供
- ・ 授業コーディネート
- ・ ボランティア対象の研修会の企画・ファシリテート



結果として
教員の仕事軽減

地域学校協働活動の理解

ボランティア研修会の大切さ

テーマ

初期

ボランティアのできること
震災でのCSの役割
ボランティアのルール作り

展開期

コミュニティ力を使った授業実践
総合的な学習の学び

視点・ファシリテーション・学びの目的

学校の授業を知ろう

歴代校長とともに学校づくりの「思いの共有」

地域と教師がともに学べる研修会



学校経営ビジョンの共有

持続可能なコミュニティ・スクールを つくるために

- 十分な熟議による共有・・・運営協議会
- 役割分担・・・組織化
- 常に学ぶ姿勢・・・研修会
- **効果の検証と活動の見直し**

常に活動を**主体的**に成長